

審議会等議事概要

平成28年度 滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議（第2回） 議事概要

日 時	平成28年3月16日（水曜日）午後6時00分～午後7時10分
開催場所	滝川市役所5階 庁議室
出席者	出席：春田委員長、新谷委員、太田委員、富田委員、佐々井委員、中野委員、居林委員、堀田委員 欠席：柴田委員、水口委員、岩田委員、佐藤委員、尾崎委員、船奥委員、渋谷委員 オブザーバー：後藤校長、内海校長、阿部校長 事務局等：山崎教育長、田中教育部長、小野指導参事、鳩山新しい学校づくり推進室長、西村学校教育課長補佐、原田新しい学校づくり推進室施設整備係長
議 事	1 開 会 ・事務局より新しい委員の紹介及び自己紹介。 ・事務局より委員長の退任報告。それにともない会議進行を副委員長に依頼。 2 教育長挨拶 本日は時間が遅いにも関わらず、このようにご参集していただき、心から感謝申し上げます。オブザーバーの市内3高校の校長先生にお越しいただき、お礼申し上げます。 言うまでもなく、これから更に児童生徒数が減少していく中、北海道教育委員会が示す公立高校配置計画では、平成31年から34年の見通しとして、空知北学区で3-4学級の調整、市内においても再編含めた定員の調整の検討が必要だと言われている。そういったことから、ご承知の通り間口減の話を色々報告していただいていた。その結果、西高の定員減ということで、方向性が確認されたところだが、その部分について、どのような中味にするか、皆さんのご意見を拝聴し、判断させていただくということ。この場で決定ではなく、皆さんに忌憚のないご意見をいただくために、今回集まっていた。気兼ねなくご意見をいただきたい。西高、おかげさまでそれぞれ人気を確保させていただいている。そういった中で間口減というのは、市としても残念であるが、これは確定事項として、いかにこれから先、学校としても市としても、満足のいく形をとっていくかということが、非常に気になる場所である。どうか活発なご意見をよろしくお願いしたい。

3 委員長の選出について

- ・副委員長

・委員長の選出について、本会議設置要綱第5条の2を説明、委員の互選により定めることを周知。選出について意見を求めた。

※事務局一任との声が上がり、事務局案を求めた。

- ・事務局)

事務局としては、長年教員、校長としてご活躍され、以前には本市民会議の委員としてもご尽力いただいた、春田委員にお願いしたい。

- ・委員より賛成の意見あり。

- ・副委員長

それでは、委員長は、春田委員にお願いし、今後の進行をお願いする。

4 委員長挨拶

- ・委員長

皆さんにご協力いただき、この後、進めさせていただきたい。よろしく願います。

5 報告事項

・事務局より、公立高等学校配置計画について「公立高等学校配置計画の概要(資料1)」を用いて説明を行った。

※質疑等特になし。

・事務局より、公立高等学校入学者選抜の出願状況について「平成28年度公立高等学校入学者選抜の出願状況(資料2)」、「空知北学区高校入試出願状況(資料3)」を用いて説明を行った。

- ・委員

ビジネス科が今まで割と良かったと思うのだが、今回こういった結果(定員割れ)になったというのは、何か大きな要因があるのか。

- ・オブザーバー

生徒募集については、例年と同じように、それぞれ学科の特色を生かした教育活動を行っていることでのPRをしている。ただ学科が3つあるので、過去何年かの出願者数を見てもわかるように、やはり年度によって波があり、若干中学生の動きが変わる。今年度はたまたまそうだったと思っ

ている。決して、会計ビジネス科や情報ビジネス科の人气がなくてこういう状況になったとは思わない。こういった見解で学校としては捉えている。

・委員

最近は進学率が上向いているので、子供たちの心理的なものが影響しているのかなと思ったのだが、いかがか。

・オブザーバー

本校に入学してくる生徒の層が、平成21年ぐらいからかなり変わってきている。それ以前に入学してきた子たちよりも、力のある子たちが本校のビジネス科にも入学してきている。結果的に非常に力を持っているので、さらに高校での学びを生かし、もっと専門的なことを勉強してみたいという子も増えているという実態もある。そういう意味での進学実績が上がっていったと思う。一方では、就職を目指して本校に入ってくる子も一定数いる。そういう子たちについては今までと同様に、きちんと就職に向けた指導をしているので、ほとんどの子たちはこの地域の企業にお世話になっているというような状況である。

・委員長

中学校の校長先生にも来てもらっているので、今年度の出願、あるいは入試に係る特徴的なこと、または学校で把握していることなどお話しいただきたい。

・委員

今日の合格発表で、滝高に41名、滝西に41名、滝川工業に7名で、滝川市に89名お世話になる。今年は卒業生自体がここ数年で一番人数が少なく、トータル118名。118名の内の89名、75%が滝川。空知全体に枠を広げると91%も空知。約8%ちょっとが札幌であったり、旭川だったり、もしくはスポーツをしたくて、運動の強い私立に行く子が全体の約8%というのが流れである。例年と比較すると、滝川への進学率が非常に高いと思う。ただ、これも年度により子どもたちの傾向があり、今年の面接練習で思ったのは、地元に残りたいという子どもたちが非常に多く感じた。将来的に地元で貢献できるような人材になりたいという事を、面接練習で言った子もいる。そういう点で、こういう結果に表れているのだと感じている。

・委員

本校は58人卒業で、おかげさまで全員合格をいただいた。先の校長先生にも言われた傾向を同じように捉えている。滝川高校の普通科10名、

理数科6名、滝川西高校普通科11名、情報ビジネス6名、会計ビジネス9名、それから滝川工業の電機が3名、電子が2名ということで80%が市内に残る。過去を見ると旭川、札幌も結構いたが、年々地元に残る傾向が強くなってきている。学力が低くなったから残るということでもなく、市内に魅力ある高校、行きたい高校が増えているのだというふうに分析し、80%が市内に残っている。あとは一部で、三笠高校とか、あるいは部活の関係で私立行くことはある。昨年では旭川、札幌の公立行く子もいたが、昨年よりは点数が高くなっているのに、市内にお世話になるという傾向がある。

・委員

本校は今年度26名が卒業生で、その年によって集団の質というか学力がかなり違う。一概には言えないが、今年度は滝川高校に7名、滝川西高校に6名、滝川工業に2名ということで、市内は15名、6割弱が市内ということになる。去年は市内がもう少し多かったが、今年は深西が9名と非常に多い状況になっている。滝川に出るのも、深川に出るのもあまり距離的には変わらないということと、雨竜経由のバスに乗ると深西の前でバスが止まるので、バス1本で行けるという利便性、あとバドミントン部の強い女子が増え、深西でやるということで去年に比べて1.5倍(去年6名)多くなっている状態である。

・委員長

それぞれの中学校の校長先生からお話があり、一概に傾向という事が言えないが、現在のところの分析や把握についてもお話をいただいた。それぞれ感じる事、思うところもあるかと思う。詳細については、このあと各中学校で分析などされていくと思うので、このような状況だという事でご理解いただきたい。

それでは、報告事項の3番目、市内各高等学校進路状況について高校の校長先生よりお話しいただきたい。

・オブザーバー

国公立の可否の発表が今年は20日過ぎのため、まだ全体の傾向がどうなるかつかめていない状況である。現在までの概数という形での報告でご理解いただきたい。前期の国公立の合格者は、現役は42名。それから専門学校の看護系が現在22名。その他の専門学校で40名ぐらい。この子達も大学との掛け持ちがあるので、確定の数字ではない。私立大は約70名の合格をもらっているが、この子たちも併願含めると4月1日現在の進路先の確定というのは、まだ未定である。公務員は4名、民間が1名、これらが全日制。全日制の今年の3年生は理数科生徒が少なく、卒業者数が220名。定時制は9名が今年の卒業生数だが、現在のところ、大学が2

名、専門学校が1名、自衛隊が1名、民間が2名である。残りが未定という状況。配置計画の中で、定時制は2年連続10名未満の場合については再編統合を考えるとということなので、今日現在で6名の合格者で、残り4名をなんとか2次募集で確保したい。定時制は2次募集も4月11日まであるので、何とか2ケタの確保と考えている。中学校校長、ご臨席の皆さん、現役の生徒に限らず、情報があればお寄せいただきたい。

・オブザーバー

お手元の資料をご覧いただきたい。3月1日現在という事で、進学については12月の段階で全部内定しているという状況である。分母が70名で77%が就職、進学で23%の割合という数字が出てきている。特に市内・管内の部分が40%ぐらいまで上がってきており、この近隣で就職ができるという状況になっている。それから消防が1名、自衛隊が3名で、計4名が公務員にいく。進学については、約23%が進学で、4名が4年制の大学に進み、職業能力大学校に1名、専門学校が11名という形である。この12号線、北空知管内は、それぞれの市町で工業団地等を持っている関係もあり、自宅から通えるということで近隣に就職したいということが、子供たちの希望だと感じている。

・オブザーバー

本校も、国公立の後期がまだ開いていないので、概数での報告になるが、今年の卒業生は277名。国公立については、前期が終わった段階で、現役で18名となっており、私大を含めると、ほぼ100名前後が4年制大学へと動いている。この後に、若干名動くと思っている。それから短大がほぼ20名、看護学校に進む者が今年は21名で決まっている。大学の方での看護もいるので、20～25名ぐらいが看護学校に進むというような実態になっており、専門学校については50名ほどである。あと就職関係の今年度は、10月に1度100%になったが、2月に入って就職に代えた子が複数名出たため、昨日の段階であと1名が残っている状況である。民間への就職には38名、滝川市内12名、管内が21名となっており、事務的な分野での就職がほぼ15名。それから公務員については、今年度15名採用いただき、それぞれ行先が決まっているというような状況である。

・委員長

それぞれ3高の校長先生から詳しいご説明をいただいた。現在の途中経過で、まだ確定ではないということだが、概略、傾向についてはご理解いただけたのではないかなと思う。

※質疑等特になし

6 協議事項

・事務局より滝川西高等学校の定員調整について、「滝川西高等学校の定員調整(学級減)について(資料4)」を用いて説明。

・委員長

教育委員会としての考え方を説明された。西高でも十分検討された事であるが、補足があればお願いする。

・オブザーバー

只今、教育委員会の方から概要については説明いただいた。昨年私が着任してそこから1年間という非常に短い間の中で、校内で整理をさせていただいた。非常に限られた中での時間との闘いというところもあったが、本校1間口減という市教委の決定を受け、校内に検討委員会を設置して検討に入った。当初は、市立になる前の「今野学園」の時から歴史的な背景を踏まえた学校づくりについての意見が非常に強い状況であった。しかし、今回の間口減の背景については、本校1校の問題だけではなく、新十津川農業含めた4校体制をきちんと堅持していくということが、大切だという話もあり、そしてこれから数年先には、西高の他にも間口減の可能性が出てくるという話も、その時には出ていたと記憶している。また先ほど、普通科と職業学科の比率を比べると、空知北学区については、職業科の比率がほかの地域に比べると少し高いという状況、本校にオープンスクールで来た中3のアンケート調査、さらに北学区の中学校を全部回り、管理職の先生と意見交換をさせていただいた。このようなことを踏まえ、ビジネス科1減という方向に落ち着いたという状況である。減ずる学科については、どちらかを1、どちらかを2にすると、やはり1学科になった方の学科の勢いが無くなる可能性があるということが一つである。それから、現在の会計ビジネス科と情報ビジネス科を設置した平成5年の当時については、「会計」と「情報」に重点を置いた学習内容ということが中心となっていたが、現在は、スーパーグローバルハイスクールのアソシエイト校の指定を受けており、グローバルな視点に立ったビジネスパーソンの育成を目指すという学習を進めている。例えば今年度の状況で言うと、日本政策銀行が主催しているビジネスアイデアコンテストに応募し、全国の11校に選ばれて「学校賞」を受賞している。それから、野村証券が行っている日経ストックリーグという株式に係る学習内容で最終選考まで残り、北海道で唯一入賞するほどマーケティングの分野について学習が増えているという状況であり、学科開設当時よりは幅広い学習内容となっている。またこのような学習をうまく使って、国公立に入ったというビジネス科の生徒もあり、今大切にしている学習内容をしっかりと学びながら、専門的なことを学べるというところを新しい学科に再編し、これまで2つの学科で培ってきた良い部分を入れながら、大学科商業1つ3クラスとして

まとめたところである。この後は学習の中身をしっかりと考えながら、それに適した学科名を市教委、道教委と連携を取りながら学校としては進めて行きたい。

・委員長

校長先生からも西高での見解、短い時間の中で検討されたことを、詳しくお聞きした。平成30年度における西高の定員については、商業科の削減、その際に学科転換を行う、新学科名についてはこの後ということで、説明があったところ。それぞれ質問や意見をお持ちかと思うが、この機会に聞きたいこと、あるいは考えなどがありましたらお聞かせいただきたい。せっくなので、それぞれ声を出していただきたいのですが。

・委員

既に減らすことも決まっていて、名前だけが決まっていないという説明だったと思う。去年の段階では、なかなか皆さん、私も含めてだが、子供たちが行く魅力もあるわけだから、間口減は苦渋の選択だったと思う。しかし、レールが敷かれてしまった以上は淡々と粛々とやっていくしかないのかなと思う。スケジュールで28年の7月に第1回目の会議とあるが、今の会議の位置づけは何になるのか。

・委員長

スケジュールについて、一緒に説明をお願いします。

・事務局)

「公立高等学校配置計画に係る今後のスケジュール」をご覧いただきたい。今日の会議については、もう本日であるということで、割愛をさせていただいている。

・事務局より「公立高等学校配置計画に係る今後のスケジュール(資料)」を用いて説明があった。

・委員長

スケジュールについての説明があったが、流れについてはよろしいか。

・委員

この前段にこの会議があったということでよろしいか。

・事務局)

その通りである。スケジュールに入れておらず申し訳ない。

※質疑等特になし。

・委員

今、説明を伺い、減るという事だけを聞くと、非常にさみしい感じをするが、校長の話では前向きに、さらに開かれた学校運営を進められるんだなということで、何か大変さわやかな感じを頂戴した。先ほど中学校の方からも進学状況について聞いたが、8割ぐらいの子供たちが地元で進学ということで、これについても滝川市の教育が前向きに進んでいるのだと感じた。今後、10年、20年後の労働力人口がますます減っていくと推測されるが、やはり地元の灯を消さないというこれからの子供たちの育成が非常に大事である。これについては当然公立学校の責任が重大であり、そのうえにある高等学校の魅力ある学校の内容、教育課程が益々求められると考える。ぜひ、明るい形で具体化され、実現されていくことに期待したい。

・委員

先ほど、商業科1つにすると伺い、どちらかを1つにするのは勢いを消さないために、学科変換するという話を受けた。その時に、やはりグローバル社会に対応するビジネスリーダーを育成するために、マーケティング分野の学習内容を充実させる。今まであった教育内容をさらに良いものにして、それをひとつの学科にする、非常にこの発想に共感を覚えた。良い方向に向いているなと感じた。生徒と話をして、情報、コンピューターを使う作業をしてみたいという興味や関心のある子が非常に多い。そういう子供たちにとって、非常に励みになると感じた。

・委員

子供がちょうど今、中学1年生で学級減行われる年に入試を受ける。少しドキドキして聞いていた。入れるかとドキドキしているが、先ほど校長先生が言われた学科変換という事がすばらしいなと思う。やはり1つのクラスになると勢いがなくなっていくというのは、本当にその通りだなと思う。初めてこの会議に参加したのでわからなかったが、子供たちのためにこんなに一生懸命会議をされて、未来の子供たちのために時間をかけて検討されているんだということが今日はすごくわかった。

・オブザーバー

少し補足させていただきたい。

今の中学1年生がまさしくその年度に関わることになる。この後4月に2年生になり、2年生の秋までにはきちっと正確な情報をアナウンスできるようにして、管内の各中学校に資料説明に行けるような状況を作るので、ご安心いただきたい。

	・委員長 本日の会議のまとめとなるが、平成30年度における滝川西高等学校の定員減については、商業科において行う。その際には、現行の会計ビジネス科と情報ビジネス科のどちらか一つを減らすという事ではなくて、それぞれの学科の特徴を生かして学科変換を行う。学科名については、学習内容、教育課程等を充分検討を行った上で決定をしていく、そして、早い時期に中学校にも情報を伝え、生徒の混乱、あるいは中学校の混乱がないようにしていきたいというふうにまとめたいと思う。以上のようなまとめでよろしいか。 ・委員より賛同 7 その他 ・委員長 その他の項目に移るが、委員の皆さんから、何かないか。 ※質疑等特になし。 ・事務局) 先ほど西高校長先生からもあったように、1学科減るというのをマイナスではなくてプラスに考えた中で、いい学科づくりを校長先生等々、協議しながらしていきたい。名称等についても、道内はもとより道外の学科名等も参考にしていきたい。新学科名について「こういう学科名はどうだろう」あるいは「こんな学校にしてほしい」という意見などを遠慮せずに言っていたらと思う。早い時期に学科名は決定したい。 ・委員長 その他について事務局の方からあったが、今の件はよろしいか。 ※質疑等特になし 8 閉会
会議資料	○「平成27年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（第2回）」配布資料1～4